

(別紙)

意見交換

※ 委員長は□、委員は○、事務担当者は△で表示する。

□ 今、当庁で行っている地域清掃活動について、御意見を伺えますか。

○ 非行をした少年になったつもりで説明を聞かせていただきまして、少し引っかけた表現が、「最終的な処分を決定します。」という言葉です。「この活動をきちんとやらなければ、不処分ではなくて、保護観察処分になったり、少年院に行くかも知れないよ。」という脅しに聞こえる気がしました。

実際問題として、まじめに掃除しなかったり参加しなかった少年は、結果として想定より重い処分をするということをされているのでしょうか。

△ 大抵の少年は一生懸命まじめにしていますが、どうしても一部は、どれだけルールの説明をしても、他の少年に話しかけてしまったり、ふてくされたような態度で積極的にとりかからない少年もいます。こちらもその都度、口頭で励ましたり、指導したりするのですが、なかなか改善が見られない場合は、清掃活動自体も処分を決めるための一つの材料になるということも事実ですので、本来特に処分をしない予定だった少年に関して、保護観察処分になるということは、実状としてあり得ます。

○ 最終的処分を決定するための一つのステップという形でこの清掃活動があるということでしょうか。

□ 少年審判手続は、最終的に少年の非行に対する処遇を決める手続であるとともに、その過程で再非行防止に向けて様々な働き掛けを行うものです。この地域清掃活動というのも、そういった働き掛けの一環として我々が少年審判手続の中にこれを位置付けて行っているもので、再非行防止に向けての働き掛けの側面を持つとともに、最終的な少年の処遇を決めるための検討資料

にもなってくるという性格のものです。

- すごく良い指摘をいただいたと思います。結果として司法手続の中で行うものですので、その態度を見た上で必要な処分をするという仕組みの中にはどうしても置かざるを得ないとした時に、どんな書きぶりだと脅し的にならないか、アイデアをいただけると参考になります。
- しおりなどオリエンテーションで使われるものですが、非常に硬い印象です。文章だけになっています。しおりなどは、最近ではパワーポイントとか多少絵柄を入れたものを使っているケースが一般的には多いと思いますが、活字が並んでしまうと一方通行で言われているとか、教えられている、諭されているという感じになる気がします。対象が少年ですから、若年者ということからすると、多少絵柄が入っている方が柔らかさが出るのではないかと思います。

もう一つは、感想文の例①、②と③、④との差は、他者との関係を書いている人と自分の感想を書いている人の違いで、その時に他の人と会話をしたとか触れ合ったかどうかの差のように思います。それは現実その場でどうしようもないのですが、この活動を行うと一緒にやっている地域ボランティアの方とかそういう方が当然感想を持たれると思います。少年の感想に加えて、地域ボランティアあるいは他者の感想を何らかの形で拾っておく、そしてそれを次のしおりであるとか、次の説明に盛り込む。その清掃の場では声は掛からなかったけれど、別の日に別の少年達がやった活動について、こんな風に感謝が寄せられている、一緒にやってこんな良い指摘をいただいたというようなこと、他者が感じているということを知ることになれば、コミュニケーションの一つにはなるのかと思います。

- オリエンテーションについて、パワーポイントを使う及び優しい言葉で行うという工夫については検討したいと思います。オリエンテーションにおける説明ぶりについて他に何かございますか。

○ この清掃活動の目的がどちらかといえば処分を決める材料の一つとしてやるというものなのか、社会の一員としての自覚をもってもらうためにやるのか、どちらが大きいのか疑問に思っさきほど質問させていただきました。やはり後者の方もありますというのであれば、罰を与えるじゃないですけど、しんどいこと、嫌なことをさせて、そんなに世の中甘くないのだよという形で社会の一員の自覚を持たせるという考え方と、あるいは、そもそも社会はこれだけみんなが協力し合っやってる、こんなにいい社会なのですよ、一緒にやろうよ、やってみたら楽しいでしょ、みんなに喜んでもらっていいでしょ、ということを教えてあげるとい考え方どちらがいいのかということになります。前者がいいというのであれば、「最終的なオリエンテーションの「処分を決めます。」という言葉が入っても致し方ないのかとは思いますが、私は、否定するよりも、良いところを指摘してあげた方が子どもはわりと伸びるのではないかという考え方が個人的にございましたので意見しました。

説明ぶりについてですが、清掃活動についてではなく、社会はこういう形で動いているというのを図式化して表現してあげたらどうかと思います。例えば、みんなが困っているような、泣いているような絵と笑っているような内容の絵をみせて、あなたがした事でどうなるか、AとBどちらになりたいかというような表現にした方がいいと思いました。

□ ペナルティではなくあくまでも教育的措置なのだけれど、やはり審判手続の一部であって、そういった活動に参加する態度、挙動を、まじめにやっているかどうかよりも、そもそも自分の行為の意味付けについて自ら内面を深めているのかというところを見ていくという場面ですので、その辺をどう伝えてやらせるのかということではないかと思います。

例えば感想文でどういようにすると③、④より①、②が増えるのかということなのですが、あまり①、②を匂わすようなオリエンテーションをして

しまうと、少年自身の内面が深まらず正解に行ってしまい、うまく働かないところもでてきます。

△ ヒントを与えてしまうとそれが望まれる答えだと思ってそれを書いてきてしまうので、あまり誘導的なことは書かないようにしたいと考えています。できる限り自分で何故これをしないといけないのか、これをしてどう思うのかというところを自分を見つめて考えてほしいということで、裁判所としてはこの感想文でずっときているのですが、これでいいのかどうかというところの御意見を伺いたい次第です。

□ そもそもペナルティではないということをきちんと理解させた上で、かつこちらがねらいとする社会的包摂の考え方に触れて、自分の非行を振り返り、内面を深めて自ら再非行防止につなげてもらうということを目指してはいるのですが、具体的な表れ方として、どのステップでどのようにやればよいか私たちの悩みです。

○ プログラムを複数用意して子どもにどれかを選んでもらうという、自発的な行為を求める方法がないのかと思いました。ペナルティとしての位置付け、判断材料としての位置付けというのを子どもたちはうすうす感じてしまうものかと思いますので、教育的措置がメインであって、最終的な処分の材料にはなるかも知れないけれど、それが目的ではないというメッセージを発した方がいいのではないかと思いました。狭いものではあっても、自分たちに選択肢が与えられると一つのメッセージになるかと思います。

活動をした後に感想文を書いてもらうのは、やりっ放しではなく、素晴らしいことだと思います。ただ、感想文を見ると、たまたま声を掛けてもらった人はそれを書けるけれども、まじめにこつこつやっていたけれども誰にも声を掛けられなかった人は、それが書けないわけなので、感想文だけでは判断しきれないところがあるのかと思います。

庁に帰ってきた後に、ボランティアの方に意見や感想を述べてもらって、

それを聞いた上で、感想文を書いてもらったり、あるいは文章を書くのが苦手な子もいると思いますので、少年同士で意見交換をしてもらって、そういったところも見る。少年同士話すと悪い情報などの交換につながってしまうというのがありますけれど、裁判所の皆さんがいらっしゃる場での意見交換であれば良いかと思います。

△ 現実的にどこまで複数のプログラムが準備できるかと、少年に選択させるところでこちらのねらいとどこまで一致できるかというところで、少し検討させていただきたいと思います。ボランティアの方に意見を伺ったり、少年同士の意見交換なども工夫できるところはしていきたいと思います。

○ まず、この活動をやっていること自体に意義があると思います。社会経験の乏しい少年が体感して、地域のボランティアに参加すること自体に意義があって、なんらか得るものがあるのだろうと思います。

しかし、言語化できなかったり、自分がやっている行為に深まりがない少年は結構います。私どもも似たような社会貢献活動、清掃活動をやっています。何回かやるのですけれど、そこで工夫しているところは、その時には本人が気付かなかったが、公園を掃除して綺麗になった後で、その公園で保育園児が遊んでいてすごく嬉しそうだったとか公園でお弁当を食べている人が増えている、というようなことが事実としてあれば、次回少年が来た時に、それをちゃんと伝えてあげるといことです。そうすると本人は嬉しそうに聞いていて、振り返って自己肯定感につながるとか社会の役に立っていると実感するのだろうと思いました。非常にいい取組だと思います。

△ その活動に参加した少年に会うのが、調査官としてはそれが最後だったりするので、なかなか次回というのが難しいのですが、そういったことが経験としてあるということを次の少年に伝えるということにはできるかなと思います。

○ 私としては、少年に更生するチャンスをあげたいというのが一番の思いで

す。先ほどの感想文で例がありましたけれど、「ありがとう」、「お疲れ様」というのを少年に与えてあげたいというのがあります。

この次のステップとして、今回のテーマの清掃からすぐに浮かんだのがハウスキーピング、客室清掃です。清掃して対価を与える、賃金を自分で稼ぐという、そこまで行けばだんだんステップが上がるかと思ったところです。今、大きなホテルや旅館は委託で清掃業者を雇っています。お客様が10時11時に帰って、そこから一斉に入って、部屋をどんどん片付けてベッドメイキングしていく。生活基盤となるような賃金にはならないので、今は70代の主婦層、外国の方が入っている作業なのですが、ここに若い方が加わると、作業がマニュアル化されていますので、すぐに覚えてすぐ出来上がるということでもいいかなと思いました。もちろん支援の方もいますけれど、ルームチェッカーがいて管理機能もできているのでいいと思います。部屋を任せられると励みになりますし、実際、修学旅行の小学生、中学生からお礼のお手紙が入っていることは多々あります。裁判所がされるのか、他の機関がされるのかわかりませんが、更生するチャンスとして、支援会社と連携して、働いて対価を得るチャンスを与えられたらと思いました。

△ 地域の関与というよりも、職業体験を通じた社会参加という意味合いが強いのかと思って聞いていました。

職業体験については、補導委託という民間の方に指導を行ってもらう制度がありまして、その中に職業補導といって、職業体験を積みせたり、職業を通じた生活指導を行ってもらうという枠組みが裁判所にもあります。

今日御説明した地域清掃活動は比較的軽微な事案の集団で参加させるものですが、補導委託は、もう少し非行内容が重かったり、生活状況や事案が重かったりする少年に関して、個別で民間の方をお願いしています。先ほど申し上げた職業指導や社会福祉法人でのボランティア活動、そういったものを宿泊付きで24時間面倒をみてもらうパターンと通所で1週間から数日程度

通ってそこでボランティアをする、あるいは職業補導をするといろいろな種別がありまして、広くたくさんの方にやってもらおうというよりは、いろいろ条件がある中で、個別に限られた少年にやっていくというものです。

ハウスキーピング作業は、職業補導に向いているように思いましたので、そちらの方で検討させていただきたいと思います。

- 清掃活動に代わる活動というところで、公園や公共の場所に花を植える、植樹をする活動の手伝いはできないかと感じています。

私が子どもを通わせた中学校が、少し山の中にありまして、周りが林で暗い道だったので、保護者から電気をつけてほしいとかいろいろ話がありました。砂利道で草も生えていたのですが、あるお父さんが草を刈ってそこに花を植えるということをする、親御さん、お子さんたちが集まって季節ごとに花を植えるようになって、それが20年ぐらい続いています。

清掃活動は当然やった感、それに対しての社会貢献は感じるのですが、清掃した瞬間が一番綺麗な状態でその後少し汚れていくので、「ポイ捨てはもうやめようと思った」とか、どちらかといえばマイナス的な意見も出てくるような可能性もあります。こういう生産的な活動に組み合わせてやれば、子どもが花を植えて、近くの公園に通った時に自分の植えた花が咲いていると感動もあるでしょうし、継続してこういう活動をやりたいと思ってもらえるでしょうし、なんらか未来につながるような活動を考えていただけたらと思います。

- △ 私も、花壇の掃除はしたことがありますが、花を植えた経験はありません。ボランティアの方と相談したりして、検討させていただきます。

- 少年にどうやって活動の意義を伝えるかということですが、「社会に役に立つことができる大人になってほしいと思います。」という言い方を聞くと、なんとなく上から指示をされている、ペナルティとして与えられていると思ってしまう若者たちは多くて、それによってモチベーションが下がってしま

うのではないかと思ってしまいました。言っていることは同じでも、皆さんもこういう風にして貢献できることが沢山あるのですよ、とお示しすれば前向きに取り組もうというモチベーションにつながるのではないかと感じました。伝えることに対して、教育的措置ですよと言うとしても、違う言い方で前向きな面を伝えるという形もあるのかと思いました。

それから、高齢化社会ということもあって若いことがすごく魅力的で、社会の中で若いということだけで明るくなったりとか役に立ったりもするので、その若いことの素晴らしさを感じてもらえるような何か活動がないのかと思いました。

○ 私どもは保護観察の子どもをいろいろなボランティアに参加させる機会を設けているのですが、老人ホームの介護などに協力いただけると、そこに若い人が来ると、それだけでものすごく盛り上がったり、「ありがとう、ありがとう」と言ってもらえるというのは、一緒に参加して体感しています。

△ 裁判所でも、先ほど話に出てきました補導委託のメニューの中に老人ホームでの活動があります。そもそも褒めてもらうこともなかった少年もいるので、お話してくれるだけでも嬉しいとか、感謝されてとても良かったというのは老人ホームに行った少年の感想からよく出てくると思います。

若いから褒められるわけでもないと思いますが、今非行をしているこの時間をもったいないと思わせることがすごく大事だと思いますので、彼らの若さというか彼らの年齢を生かした何かを考えられればと思います。

○ 大阪家庭裁判所単体でこういうことをされているのではなく、地域の方と一緒に活動をされているのが素晴らしいと思いました。

先ほど意見がありました花を植えるというのはすごくいいことだと思っています。個人的に私の住んでいる地域で公民館や区役所の花壇に花を植えるという活動を最近始めたのですけれど、子どもにとって「掃除しなさい」というのは罰を受けている感じに思うけれど、「花を植えて」と言われて罰と

感じることはあまりないかなと思いますので、いい方法だと感じました。

ペナルティと感じさせない活動が何かほかにないかと思った時に、地域の地蔵盆や餅つき大会の準備、例えば、お菓子を袋詰めさせるとか何か地域の人と関わりを持たせることとか、ホームレスの方の炊き出しとか、そういったこともできないかと思いました。

- 後に振り返ってみて、あの時の「ありがとう」とか「お疲れ様」がまっすぐ進んでいくきっかけになったということはあるので、この活動は素晴らしいと思います。

説明の文面なのですが、なかなか厳しいと感じました。特に私が感じたのは、「皆さんは、何らかの事件を起こして、社会に迷惑をかけてしまったと思いますが、社会の役に立てる力も持っていると思います。」のところで「社会の役に立てる力も」の「も」はどうなのかと思いました。個人的な感触では「を」がいいような気がします。

清掃活動に代わる活動として、実現性は置いておきまして、スポーツイベントのボランティアも面白いと思います。もしできるのであればマラソンの給水のボランティアなど、一生懸命している人の姿を見て、かつ「ありがとう」と言ってもらえていいと思います。

- 感想文についてですが、私自身は、読書感想文などを書くのが苦手です、逆に本当はそんなことを思っていないのに良く見せるテクニックを持っている人もいます。感想文はその対象となる方の特性によって全然変わってくるので、これだけで物事が決まってしまうような形は良くないと思います。活動後に裁判所に戻って来て、個別にインタビューをして生の声を聞く方が本音が出ると思います。それから、他の委員の方もおっしゃっておられましたが、参加した者同士で集団で振り返りをして意見をまとめあげるグループワークみたいな形をとるのも一つかと思います。社会の一員として参加するという意味でいうと、グループワークで活躍することは非常に有益かと思います。

それから、この活動をされていることは、私もこの委員会に来て初めて知ったのですが、一般の人は裁判所がこういう活動をしているということを全然知らないと思います。支障がないのであれば、地域の活動に家庭裁判所が参加しているということを公にして、その上で清掃活動以外の何か、参加して良かった、社会の一員として参加したと思えるような企画を一般の方から公募すると、もっと違った切り口があるのではないかと思います。

□ 本日は、非常に多くの貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。